



こころの虹

OIKAWA HOSPITAL INFORMATION KOKORO no KAKEHASHI

- ホームページ URL <http://www15.ocn.ne.jp/~oikawahp/>
- Eメール address oikawahp@oa.mbn.or.jp

編集・発行

医療法人 にゅうわ会

及川病院

〒810-0014

福岡市中央区平尾2丁目21-16

TEL 092-522-5411

No. 9 2006年6月 発行

基本理念

及川病院のめざすこと、その役割と大切なこと

親切

私たちは親切な対応とわかりやすい説明を心がけ、
患者様の身になって行動しています。

信頼

私たちは患者様の一日も早い快復、社会復帰を願い、
信頼され、心の通い合う医療に努めています。

専門

私たちは乳癌の診断から治療、
緩和ケアまでを担う専門病院として、
女性の生涯にわたる心身の健康を総合的に守ります。

進歩

私たちは常に新しい医療・療養環境を学習し、
分析・反省を繰り返し、
より優れた医療の提供を目指し進歩し続けます。

黒井克昌先生を副院長・乳腺腫瘍科部長として迎えて

院長 及川 達司

及川病院では、4月より黒井克昌先生を副院長・乳腺腫瘍科部長として迎えました。黒井先生の活躍の一部をご紹介しますと、日本乳癌学会乳癌専門医・指導医・評議員、日本外科学会指導医、日本臨床腫瘍学会指導医、緩和医療学会評議員その他数多くの学会に参加されています。海外の学会でも活躍され、米国臨床腫瘍学会員、米国癌学会員でもあります。他にも、乳癌学会ガイドライン「患者さん向け乳癌診療ガイドライン」「疫学・予防」作成委員、NPO日本乳がんネットワークJCCNB理事を務めるなど、その活動範囲は実に広いものがあります。黒井先生は臨床研究にも造詣が深く、日本及び海外の臨床研究にも数多く参加されその中心的存在として活動されています。国際的な乳癌研究グループであるBIGの一員で、今後、BIGの行う国際的な臨床試験への参加も計画されています。

現在まで、広島、東京にて治療と研究の両面において活躍されてきました。今後は福岡において最新乳がん治療のリーダーシップをとっていただくために来ていただいたと言えるでしょう。黒井先生は、当院が乳がん専門病院としての役割を達成するにふさわしい経歴・実力・意欲を持った医師であります。女性が生涯にかかる率は20人に1人とまで言われている乳癌に対する最新の治療を行なっていくために、またこの福岡で患者様に頼られそして乳がん医療を行なう者が集う場所になるために、黒井先生にその大役を担って頂きました。

今後、及川病院は黒井先生を中心に、そして患者様と共に乳がん専門病院としてますます充実発展していくことと信じております。



「われ思う、故に、われあり」

黒井 克昌

有名なデカルトの言葉で、自分自身の存在について問う言葉であると高校で習いました。どうも本人の言葉ではなく講演会の宣伝文句のようです。今、ここにいる自分が本当の自分なのか、夢の世界にいるのか。夢は見ているときには真実に見えますが、醒めてしまうと消えてしまいます。したがって、今、現実的にここにいる自分が本当のものではないのではないか、いつか、この夢が醒めてしまうのではないかと考えたわけです。デカルト自身はついには答えを見つけることができなかったようですが、本当でしょうか。今は、見つけているかもしれません。知る由もありませんが。

当院による乳がん個別検診

ご希望の方には福岡市の検診に加え、乳房超音波検診検査（別料金2500円）、マンモグラフィ検査（別料金3500円）も行っております。

また上記に当てはまらない方は金額が異なりますので、ご予約の際にご確認ください。

* ご注意 *

自覚症状のある場合や検診中に何らかの症状が見つかった場合は、健康保険の対象となりますので、受診の際に保険証は必ずお持ち下さいませ。

ご予約方法

お電話にてお問い合わせください。予約状況をお調べしてご希望の日時にてご予約を承ります。

受付電話番号 092-522-5411

受付時間
平日 9:00 ~ 17:30
土曜日 9:00 ~ 16:30
日・祝日 なし

はっぴーママ主催によるイベントへ参加しました。

平成18年9月23日（土）10:00~16:00 久留米ゆめタウンにおいてはっぴーママ主催によるイベントに、及川病院は乳がん検診啓発ブースを設置して参加させて頂きました。

若年層の参加が多く見られ、パンフレットやピンクリボンバッジ等を配布させて頂きました。

ブース内には、乳がんの症状をモデルにした乳房の模型を展示し、実際に触ってもらう体験コーナーを作りました。乳房の奥にあるしこりを触るのは皆さん初めての経験で、神妙な面持ちでした。

及川院長による質問コーナーには何人もの方が相談にみえ、日頃から不安を持っている方が多いと感じられました。一方、知識に偏りがあり、「授乳時期には乳がん検診を受ける必要性がない」、「若いので乳がんにはかからない」と思っているなど、乳がんに対する間違った認識をお持ちの方が多く驚きました。

これからも、当院は積極的にイベント等に参加し、乳がんに関する正しい知識と予防法についてできるだけ多くの方に知って頂ける活動を行って参りたいと思います。



院長による説明風景



乳癌専門ブースの設置



イベントで賑わう様子

早期発見のステップ 1 乳がんを知りましょう！

- 40歳から乳がん年齢です。
20代から80代以上の方まで、どの年齢でも乳がんは発症しますが特に罹患率が高いのは、40～50歳代です。
- 乳がんは増えています！
1999年に乳がん で亡くなった人はがん死亡者全体数の14%にもなっています。

早期発見のステップ 2 自分自身を知りましょう！

- あなたのリスクを知りましょう。
乳がん に罹りやすい人がいます。自分のリスクを知ることは予防のために大切です。
- ☐ 40歳以上である
- ☐ 未婚である(30歳以上)
- ☐ 閉経年齢が55歳以上である
- ☐ 閉経後肥満である
- ☐ 良性の乳腺疾患になったことがある
- ☐ 初産年齢が30歳以上である
- ☐ 家族に乳がんになった人がいる

早期発見のステップ 3 自己チェックしましょう！

- 自分で「しこり」の発見を！
乳房がもっとも柔らかくなっている月経の後が観察しやすい時期です。月に1度は自己検診でチェックしましょう。



早期発見のステップ 4 積極的に受診しましょう！

- しこりとして触れない小さながんはマンモグラフィ(乳房レントゲン)や超音波検査で発見することが出来ます。
まずは自己検診を習慣にして、異常がなくても自治体や職場の検診、病院での検診を積極的に利用しましょう。
- 福岡市による乳がん個別検診

対象年齢	検診内容	個人負担金
30～39歳	視触診	600円
40～49歳	視触診+マンモグラフィー	1500円
50歳以上	視触診+マンモグラフィー	1200円

(福岡市より補助されますので上記の金額となり、福岡市在住の方のみ適応となります)

第八回 乳癌の発癌の予防（１）

顧問

野村雍夫

乳癌は予防できるでしょうか？可能です。エストロゲンおよびプロゲステロンが乳癌を起こす大きな原因であることを申しました。そうであるならば、乳癌の発癌の予防の第１は、体内のエストロゲンのレベルを低下することです。第２に、ホルモンレセプターのレベルでエストロゲン活性を阻害するという方法です。

１）多くの疫学的研究により、乳癌リスクは外科的な卵巣摘出術をうけた女性で低下し、若年で両側卵巣を摘出すると、その後の乳癌の発生率が著しく低下し、その時期は若ければ若いほど、その程度は大きくなります。これらの成績はエストロゲンへの暴露に依存するためであると考えられ、若年に自然または外科的に閉経をもたらすと生涯にわたる保護作用が存在すると考えられます。しかし、この少子化の時代に若いときに卵巣を摘出し、出産できなくなることは個人的にも、社会的にも犠牲が多すぎます。また、卵巣摘出の副作用が当然おこり、早期閉経のための更年期症状や骨粗鬆症、心血管系疾患が起こりやすくなります。

その代わりに、閉経前女性では一時的卵巣の機能を抑制するLHRHアゴニスト（ゾラデックス、リュウプリン）という薬剤を使用することが考えられました。この薬は乳癌のホルモン療法として臨床的によく使われて、効果が確かめられています。数年間の使用後に投与を終了すると、大多数は月経が回復します。年齢別の乳癌罹患率の数学モデルに基づいて、このような薬剤の投与を５年、１０年、１５年継続することにより、乳癌のリスクがそれぞれ、３１％、５３％、７０％低減すると計算されました。現在では、この薬剤の化学予防の大規模な試験はまだ行われていません。

一方、閉経後女性の血中および乳腺内のエストロゲンレベルを低下するにはアロマターゼ阻害剤が有効であり、現在、再発・進行乳癌の治療や早期乳癌の術後補助療法として広く使用されています。この薬剤の科学予防のメカニズムは、１）エストロゲンレベルの低下による細胞増殖の低下、２）組織内エストロゲンレベルの低下により遺伝子毒性の代謝産物の形成を防止すると考えられています。これまで、ラットの自然発癌や発癌剤誘発発癌を抑制しました。また、早期乳癌の術後補助療法において、対側乳癌の発生を４０－５０％低下しました。このような結果を踏まえて、アロマターゼ阻害剤とプラセボ（偽薬）の比較試験がいくつか開始されていますが、結果はまだ出ていません。

その他、偽妊娠、タモキシフェン、ラロキシフェンなどの抗エストロゲン剤（SERM）、体重減少、食餌療法などによる乳癌の発癌予防が考えられています。